事例No.	1007
公表年度	R1
団体の属性	中核市
団体名	東京都八王子市

事例区分	行政改革

タグ	・新たな政策手法の確立・活用 ・福祉・介護 ・EBPM

事例種類	新たな政策手法の活用

事例内容・タイトル

大腸がん検診受診率向上に「ナッジ」の活用

出典

地方公共団体における行政改革の取組（令和2年3月27日公表）

★新たな政策手法の活用〈東京都八王子市（人口約55万人）〉

○　**「プロスペクト理論」**※1**に基づく「ナッジ」**※2**の手法を活用し**、これまで自身が享受していた行政サービスが受けられなくなることをメッセージとして発信することで、**損失を回避したいという意識へ働きかけ、大腸がん検診受診へ結びつける**。

※1　自分が行動を行さないことによって、これまで自分が享受していた行政サービスを受けられなくなってしまうという損失を回避したい意識への働きかけ
※2　ナッジ（nudge：そっと後押しする）とは、行動経済学の理論の１つで、個人の選択の自由を阻害することなく各自がより良い選択を行うよう、情報発信や選択肢の提示の方法を工夫するもの

〈大腸がん検診受診率向上に「ナッジ」の活用〉

課　題

○　大腸がんは日本人のがんの部位別死亡数第２位であり、近年増加しているがんである。毎年の検診（便潜血検査）により、死亡リスクを60～80%減らすことができ、市民の死亡率減少のため**検診の受診率を向上させる必要**がある。

○　八王子市においては、前年度大腸がん検診を受診し、「異常なし」と判定された者に、翌年度、検診開始前に便検査キットを自動送付している。しかしながら、利用に供される割合は約７割であり、**継続受診に結び付けるさらなる働きかけが必要**である。

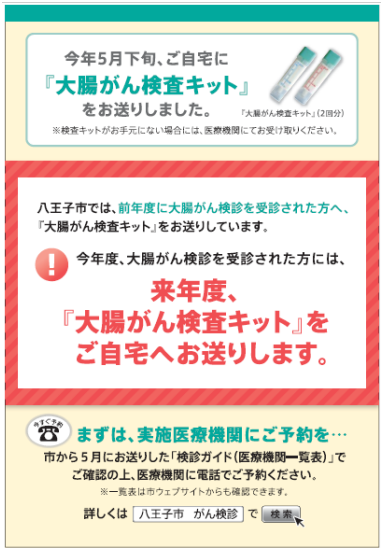
取　組

○　検診開始前に便検査キットを送付したにも関わらず、10月時点で未受診の者に個別通知による受診勧奨を実施する。

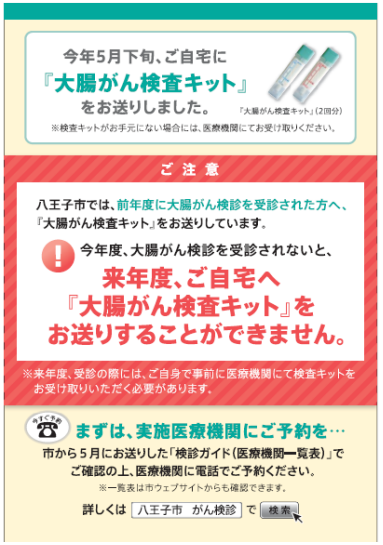
○**【パターンA】**…　大腸がん検診を受診すれば、来年度も検査キットが送られてくる、という**利益フレーム**。

【パターンB】…　大腸がん検診を受診しなければ、検査キットの自動送付が、自らの行動により提供されなくなる、という**損失フレーム**。

○　ランダムに送り分けを行う。**プロスペクト理論（人はまず損失を回避する行動をとる）により、【パターンB】の受診率が伸びると予測**。



【パターンA】
利益フレーム



【パターンB】
損失フレーム

成　果

○【パターンA】受診率＝22.7%※　**【パターンB】受診率＝29.9%**※　※ p<0.001

○　次年度以降の受診勧奨、検診案内に損失を強調したメッセージを盛り込むことを検討。